沼田城つくろう 1

背景は5層の天守の存在を裏付ける正保城絵図（1644年）の上野国沼田城絵図の一部分（国立公文書館所蔵）

関東有数の天守閣が存在したことで知られ、NHK大河ドラマ「真田丸」で注目される沼田城一。地元では大正年間から再建に向けた議論が繰り返され、天守の復活は1世紀に及ぶ市民の悲願だ。

そんな5層の天守が5日、一足早くゲームの世界でよみがえった。「真田のやぼう　3D沼田城」をプレーすれば、スマートフォン上に幻の天守閣が浮かび上がる。

市民の悲願である再建計画を阻んできた最大の壁は、財政面の課題だった。天守再建に仮に少なくとも数億円とされる巨大な費用が必要だ。「そこまで金はかけられない」（関係者）台所事情の中、無料でダウンロードできるゲームが登場したことで、長年の懸案は一歩前進した。

沼田市役所で早速ゲームを体験した横山公一市長も、「これは"ハマる"ね」と笑顔で太鼓判。新たなゲームが沼田城を全国にアピールする好機となることに期待を寄せている。

ゲームで天守再現

3Dでも楽しめます　AR（拡張現実）アプリ「Ｐｏｓｔ　ＡＲ」をダウンロードした上で絵図の天守閣部分にスマートフォンをかざすと、紙面上に沼田城の3D画像が出現します。城は360度の方向から眺めることができ、解説も流れます。アプリは右側のQRコードからダウンロードできます。

重鎮3人 築城に挑む

「天守再建の機運に合わせ、タイミング良く面白いゲームができた」と声をそろえる（右から）宇敷会頭、横山市長、峯川理事長

「真田のやぼう　3D沼田城」のリリースを前に、横山公一沼田市長（69）、宇敷正沼田商工会議所会頭（73）、峯川卓美利根郡信用金庫理事長（69）の3人が8月末、沼田市役所でゲームを体験した。平均年齢71歳の"沼田の重鎮"3人の反応は…。

3人とも携帯電話は"ガラケー"なので、ゲームを開発したクライムの社員からスマートフォンを借りた。使い慣れないスマホでも、画面に現れるアイテムやキャラクターは触れるだけで手に入るため、直感的な操作でゲームを進められる。アイテムを手に入れるたびに上がる「ぬまた～」の声に、3人の表情が思わず緩む。

「出た～！」と叫んだのは峯川理事長。レアキャラの小松姫をゲットしたようだ。理事長は8月の沼田まつりに招かれた「真田丸」の小松姫役、吉田羊さんからサインをもらったはかり、この日も小松姫狙いだっただけに、「当確がかなった」と満面の笑みだ。

吉田さんのサインの話題になると、「俺はもらってない」と物しがった宇敷会頭だったが、しばらくして「こっちは塩原太助が出た」と声を上げる。しかしこれはクライム社員により、レアキャラではない「大工」と確認された。「俺のには女性が出てこない」と会頭がぼやく。

「これはハマるね」と横山市長。「これだけ『ぬまた～』と言ってもらえるのは、市としてはありがたい」と喜ぶ。しかし、「職員がハマって仕事しなくなっちゃっても困るな」。市のトップとして心配する。

難問ぞろいのクイズに挑戦すると、3人とも抜群の正答率で周囲を驚かせた。気をよくして再びゲームを続ける3人。室内にはいつまでも「ぬまた～、ぬまた～」の声が響いていた。

自分の城を完成させよう

「真田のやぼう　3D沼田城」は、「ぐんまのやぼう」や「上毛新聞のやぼう」などのゲームを手掛けた本間和明さん＝吉岡町出身＝が監修し、システム開発会社のクライム（高崎市）、ろけっと開発（前橋市）が共同開発した。画面に出現する木材やキャラクターを集めてポイントを稼ぎ、櫓や天守閣、城下町を作り上げていくゲーム。難しい操作や技術は不要で、幅広い世代が楽しめる。アプリは「ＡＰＰ　ＳｔｏＲｅ」などから無料でダウンロードできる。

なぞってアイテム獲得

本紙特集面では今月から月ごとにテーマを設け、バラエティー豊かな話題を取り上げていきます。「沼田城つくろう」第2回は29日に掲載します。